

社会資本総合整備計画

事後評価書

令和05年03月17日

計画の名称	緊急輸送道路における無電柱化の推進（防災・安全）														
計画の期間	平成29年度～令和02年度（4年間）												重点配分対象の該当		
交付対象	広島市														
計画の目標	緊急輸送道路の整備に併せて無電柱化を行い、災害時における避難路及び輸送路の確保など都市の防災機能を向上させ、市民の命と暮らしを守るインフラを再構築する。														
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）		9,485	A	9,485	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）		0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H27末	H30末	H32末
1	緊急輸送道路の無電柱化の整備率を37%から71%へ増加させる。			
	緊急輸送道路の無電柱化（電線共同溝）の整備率	37%	67%	71%
	無電柱化の整備率（％）＝整備完了総延長／整備計画総延長（事業費換算延長）			

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	○	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定		避難行動要支援者名簿の提供	
整備済の事業費換算総延長を約3.9km 約7.5kmに増加させる。 整備計画総延長：10.5km																

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		H29 H30 H31 R02 R03																	
		一体的に実施することにより期待される効果 備考																	
道路事業	A01-001	街路	一般	広島市	直接	広島市	S街路	改築	東雲大州線ほか1路線	電線類地中化 L=0.8km	広島市	■	■				3,114		-
	A01-002	街路	一般	広島市	直接	広島市	S街路	改築	霞庚午線	電線類地中化 L=2.7km	広島市	■	■	■	■		3,948		-
	A01-003	街路	一般	広島市	直接	広島市	S街路	改築	比治山東雲線	電線類地中化 L=1.1km	広島市	■	■	■			355		-
	A01-004	道路	一般	広島市	直接	広島市	市町村 道	改築	中2区中島吉島線（吉島通 り）	電線類地中化 L=1.24km	広島市	■	■	■	■		640		-
	A01-005	道路	一般	広島市	直接	広島市	市町村 道	改築	南4区中広宇品線（翠町）	電線類地中化 L=2.6km	広島市	■	■	■	■		532		-
	A01-006	道路	一般	広島市	直接	広島市	市町村 道	改築	西1区駅前観音線（中広通 り3工区）	電線類地中化 L=0.8km	広島市	■	■	■			260		-
	A01-007	道路	一般	広島市	直接	広島市	市町村 道	改築	中1区霞庚午線	電線類地中化 L=0.92km	広島市	■	■	■	■		442		-

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
道路事業	A01-008	道路	一般	広島市	直接	広島市	市町村 道	改築	中3区中広宇品線（城南通 り2工区）	電線類地中化 L=0.35km	広島市	■	■	■	■		194		-	
											小計						9,485			
											合計						9,485			

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

道路交通局道路部道路課で評価を実施

事後評価の実施時期

令和5年2月

公表の方法

広島市ホームページにて公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

西1区駅前観音線や比治山東雲線などの事業箇所について、電線共同溝工事を実施することで、道路防災機能の向上、安全で快適な歩行空間の確保、良好な都市景観の創造を推進することができた。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

○特記事項（今後の方針等）

本事業については、令和2年度より新たに創設された「無電柱化推進計画事業補助」へ移行し、より重点的な支援を受けながら事業を進めていくこととした。令和3年度以降も「広島市無電柱化推進計画」に基づき、補助制度を活用して、積極的に無電柱化を推進することにより、災害時において電柱の倒壊や電線の切断による道路閉塞を防止し、道路防災機能の向上を図る。

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	緊急輸送道路の無電柱化の整備率を37%から71%へ増加させる。		
	最 終 目標値	71%	計画的に事業を推進することにより、効率的な事業進捗が図られたため。
	最 終 実績値	77%	